

富田から自然再生の津之江公園及び
筑紫津神社・アジャリの森・清水池公園を含む
ウォーキング・ガイド ブック

1. 阪急富田駅から津之江公園までのウォーキング・ルートで通過する“まち”

1) 桜ヶ丘の“まち”

この“まち”は、新京阪電鉄（現阪急電鉄）が、昭和5年に竣工した「桜ヶ丘経営地」という郊外住宅地で、周囲よりやや高台になっています。

阪急京都線を挟む、桜ヶ丘南町、北町に分かれています。

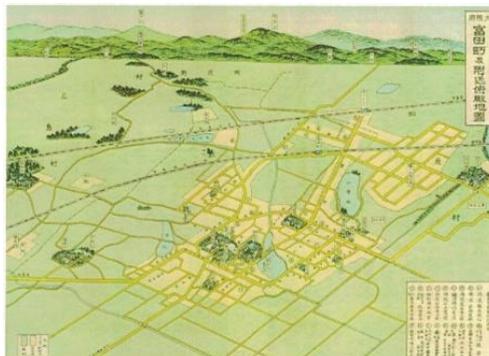
地区の東には、由緒のある五百住神社があります。

この住宅地の建物は、どの建物も当時の近代建築の建物で、同じ建物は有りませ

ん。僕は大阪からして、西の芦屋か東の富田「桜ヶ丘」かと、よく言うくらい高級住宅地です。

これは、阪急京都線の車窓からも良く見えます。

昭和7年発行の地図でも「桜ヶ丘」の“まち”が明確に表示されています。



昭和7年に発行された
富田の俯瞰図

2) 五百住町

富田が安閑天皇(531～535)の皇后の御料地となった時、河内の国が求めを拒んだので、その償いとして毎年春と秋の農繁期に鋤丁「(クワミヨボロ)＝人夫」五百人づつをだすことになった。

その人夫五百人が住んだ場所として現在の西五百住・東五百住の地名が残りました。

西五百住の村社：八幡神社・・・西五百住町3

東五百住の村社：五百住神社・・・高槻市桜ヶ丘南町19

3) 津之江の起源

筑紫津神社(高槻市津之江町 1-27-1)の境内由緒板に次の様に記載されています。

「本地は古来嶋上郡に属し、筑紫津（つくしつ）と称す。当時澱江、本地の南方に流れ、風景絶佳の地なり。その後、御神号の津を頂き、水に因みて津江と称す。是れ、津の江の起源なり」と記載されています。



筑紫津神社の境内由緒板